

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己                | 外部  | 項目  | 外部評価   |  |  |
|-------------------|-----|---|--|--|--|
|                   |     |   | 自己評価<br>実践状況   | 実践状況<br>次のステップに向けて期待したい内容  |  |
| <b>I 理念に基づく運営</b> |     |   |  |  |  |
| 1                 | (1) | ○理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている                                | 見やすいところに掲示し、職員全員で共有し意義を理解しケアの実践に繋げている。   | 法人理念とホーム独自の理念を玄関事務所の目につく所に掲示している。職員は担当利用者に対して理念に沿った支援ができていのかどうか職員会議の席上で確認し合い、サービス向上に取り組んでいる。理念にそぐわない言動が仮にあった場合には「今何が悪かったのか」その場で注意、指導し、より良い支援に繋げている。家族に対しては利用契約時に説明している。  |  |
| 2                 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している                                | 地域の催しものや会合、消防訓練等に参加し地域との交流を深めている。また、ボランティアの方々に来所して頂く回数も増えている。学校からの職場体験やボランティアの受け入れを通じ地域の一人として日常的に交流している。組に参加している。  | 自治会費を納め、新町2区の一員として活動している。回覧板も回して頂き行事を把握し、区の一斉清掃や防災訓練にも参加している。地域の神社のお祭りではお神輿が来訪し、祭り気分を味わい、また、神社で行われる福引大会にも出掛けしている。中学生が職場体験に来訪し、利用者とのレクリエーションや車イスの操作実習にも取り組んでいる。また、小学生の職場体験も受け入れる予定がある。更に、職員の繋がりで「歌」、「踊り」等のボランティアの来訪も定期的にあり利用者も楽しみにしている。                             |  |
| 3                 |     | ○事業所の力を活かした地域貢献<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている                              | 職場体験の受け入れや施設見学を通じ、認知症についての理解を深めて頂けるようにしている。  |  |  |
| 4                 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている           | 定期的に運営推進会議を開催し、状況を報告し意見頂きサービスの向上につなげるようにしている。  | 家族代表、区長、民生委員、市介護保険課職員、地域包括支援センター職員、岳北消防署員、ホーム職員の出席で2ヶ月に1回開催している。現況報告や事故報告、感染症予防等についての市よりの連絡、消防署からの火災予防についての話などがあり、意見、提案等を頂きサービスの向上に役立てている。家族に対しては会議の議事録を送り、内容をお知らせしている。ホーム内では議事録の開示に合わせ職員会議の中で報告し、徹底を図っている。  |  |
| 5                 | (4) | ○市町村との連携<br>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる                      | 運営推進会議に地域包括支援センター、介護保険係の方に出席して頂いており、密に連絡を取り入居者の安全、サービスの向上にむけ、指導、助言を頂き関係を築くよう取り組んでいる。また、ケアマネが地域ケア会議、研修会へ積極的に参加している。 | 地域包括支援センターに実務的な相談をし連携を深めている。また、地域包括支援センター主催の市内介護施設ケア会議に毎回出席し、情報交換と知識の習得に努めている。介護認定の更新調査は調査員が来訪しホームにて実施している。消防署主催の「救命救急」の研修会やハローワーク主催の「VR(バーチャリアリティ・仮想現実)体験会」にも参加し知識の向上に努めている。  |  |
| 6                 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践<br>代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 常に見守り、所在確認を行い、その時々々の状況を細かく把握することにより、安全に配慮しながら鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。また身体拘束についての勉強会を開催し職員全体が理解するように努めている。              | 法人として「拘束しない」宣言をしており、当ホームとしても5月の法人施設長会議で改めて「しない」宣言を行い、拘束に頼らないための支援を考え取り組んでいる。玄関は日中開錠されている。職員は利用者の動作に常に気を配りきめ細かく所在確認を行い、つき添うよう心掛けている。ベットの落下が危惧される利用者については掛け布団の端に「鈴」をつけたり、法人代表者が開発した動作を感知するシステムを使用し拘束のない安全なケアに取り組んでいる。毎月の研修会の中で管理者が講師となり、拘束のないケアについての知識を高め支援に取り組んでいる。 |  |

| 自己 | 外部  | 項目   | 自己評価   | 外部評価  |                   |
|----|-----|--|--|---|-------------------|
|    |     |  | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7  |     | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている        | 虐待についての講演会への参加、施設内での勉強会を開催し知識を身に付け、ミーティングの際には再確認を行い職員一人一人が注意を払い防止に努めている。                   |   |                   |
| 8  |     | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している    | 現在「成年後見制度」を利用している方がいらっしゃる。制度についての勉強会を実施し、職員は知識、理解を深め必要に応じ活用出来るよう支援している。                    |   |                   |
| 9  |     | ○契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている                        | 入居時の契約の際は家族の要望、不安な点を伺い様々な状況への対応、対処、起こりうるリスク等説明し同意を得ている。                                    |   |                   |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映<br>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている                     | ご意見箱を設置、ご家族からの要望、意見を柔軟に受け止め、職員はご家族へ施設での様子を手紙にて伝え、運営会議など通じ公表しアドバイスを頂いたり運営に反映させている。          | 利用者の思いは、言葉での判断に合わせ生活の様子を見て好き嫌いを見極め、受け止める様子に取り組んでいる。家族の来訪は2日に1回から月1回位であり、全家族の来訪がある。来訪時には管理者や担当職員より日々の様子を細かくお話している。敬老会に合わせ、大勢の家族、市の担当者、民生委員の参加の下、家族会を実施し、食事会、レクリエーション、ボランティアの出し物、職員の余興等で楽しい1日を過ごしている。毎月行われる行事の様子はホーム内の掲示板に写真で紹介され、利用者個々の様子については担当職員より手書きのお手紙で毎月請求書に同封しお知らせしている。 |                   |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映<br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている                                      | 毎月の職員会議や毎日のミーティングの中で職員が気軽に意見、提案を出せる時間、場を設け、話し合い確認し、その出された意見や提案を参考にしながら心地よい環境、良いケアに反映させている。 | 月1回、中旬の午後、職員会議を行いカンファレンスを含め事務報告、研修会、意見交換等を行いサービスの向上に活かしている。合わせて毎朝ミーティングを実施し日々気づいたことを修正しながら支援に取り組んでいる。人事考課制度があり、職員は年2回、人事考課表による自己評価を行い上長の評価の後、管理者による個人面談を行いキャリアアップに繋げている。また、管理者が毎月、「愚痴」を聞く日を設け、職員と様々な話をする機会を設けゆとりのある職場環境作りとスキルアップに繋げている。                                       |                   |
| 12 |     | ○就業環境の整備<br>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている      | 職務内容、任用等の条件、賃金体系を確立し、職員が向上心を持って働ける様、職場環境、条件の整備に努めている。                                      |   |                   |
| 13 |     | ○職員を育てる取り組み<br>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている         | 職場内での勉強会、外部研修への参加や介護福祉士資格、介護支援専門員資格取得の機会を確保し働きながらトレーニングして行くことを進めている。                       |   |                   |
| 14 |     | ○同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 交流会や講演会に参加したり、他の施設の見学を行いサービスの質の向上に取り組んでいる。   |   |                   |

| 自己                           | 外部  | 項目   | 外部評価   |  |
|------------------------------|-----|--|--|--|
|                              |     |  | 自己評価<br>実践状況   | 実践状況<br>次のステップに向けて期待したい内容  |
| <b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> |     |  |  |  |
| 15                           |     | ○初期に築く本人との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | サービスを導入する段階で、心身の状態を把握し、本人が困っている事、不安、要望に耳を傾け思いを受容し安心が確保出来る関係作りに努めている。   |  |
| 16                           |     | ○初期に築く家族等との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている            | これまでの経緯を時間をかけてお聞きし、ご家族の状況を理解し思いを受け止め、信頼関係を築くことの大切さを日々感じながら支援に努めている。  |  |
| 17                           |     | ○初期対応の見極めと支援<br>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている        | 本人や家族の思いや状況を確認し、必要としている支援を見極め適切なサービスに繋げる等、状況の改善に向けた対応に努めている。   |  |
| 18                           |     | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている                        | 支援する側される側という意識ではなく、共に笑い感動し、思いを受け止めお互いが協働しながら穏やかに暮らせるよう支援している。  |  |
| 19                           |     | ○本人を共に支えあう家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている         | 家族の考え思いを共有しながら家族と一緒に本人を支えていける体制を整えている。一ヶ月の様子を手紙でお伝えしており、電話や面会時に情報交換をし、本人を支えるための協力関係を築く様努めている。                      |  |
| 20                           | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている                     | 家族や親せきの方の来所により今までの関係が途切れることのないよう定期的に連絡をし支援している。自宅に帰りたいとの訴えが聞かれた際は家にお連れし、本人の気持ち、思い出の場所、人々との関係が途切れない様常に気を配り支援に努めている。 | 利用者の高齢化に伴い来訪される方が減ってきているが、近所の方や利用者共通の知人の来訪があり、食べる物を持参でお見えになり親しくお話をされている。また、年賀状のやり取り、家族と馴染みの店へ買い物や食事に出掛ける利用者もいる。利用者同士がにこやかに過ごされており、職員が中に入り相性を考慮の上、席の配置などを考え、馴染みの関係づくり努めている。 |
| 21                           |     | ○利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている                  | 他のご利用者様との関係を観察し、関わり合いを大切にし、軽作業やレクリエーションを通じ、孤立しない様寄り添いあえるような見守り支援に努めている。  |  |

| 自己                                 | 外部   | 項目   | 自己評価  | 外部評価  |                   |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
|                                    |      |  | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22                                 |      | ○関係を断ち切らない取組み<br>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている                    | サービス利用が終了してもお互いの関係を大切にし、情報提供や相談、支援に努めている。   |   |                   |
| <b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> |      |  |   |   |                   |
| 23                                 | (9)  | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している   | 担当チームを置くことにより、ご利用者様の思いや希望、その人らしい生活、どのようにしたら安心して暮らして頂くことが出来るのか、行動、表情、生活歴などからその人を理解し受け止め日々のつづやきにも耳を傾け意向の把握に努めている。 | 自分の思いを言葉で伝えられる利用者は半数位で、「ハイ、イエ」で答えられるような言葉掛けに努めている。合わせて筆談での提案も行い思いの把握に繋げている。また、支援している中で利用者のプライドを傷つけないよう出来ることはやって頂き、「介助をやりすぎないよう」気配りしている。変わった言動等があった場合には介護支援記録に残し、申し送り時に確認し、状況に応じて利用者とは1対1で話をし理由を探り、意向に沿った支援に努めている。 |                   |
| 24                                 |      | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている                                       | 利用者の生活歴・会話・行動・馴染みの暮らし方・家族からの情報を基に、これまでのサービス経過を踏まえ安心した生活が営めるよう生活環境の把握に努めている。                                     |   |                   |
| 25                                 |      | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている   | 1人ひとりの尊厳を大切に、心身の状態を観察し、その人の出来る事や得意な事を見つけ、その人らしい生活を送ることが出来るよう環境への配慮・現状の把握に努めている。                                 |   |                   |
| 26                                 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 日頃の関わりの中で思いを受け止め、家族との連絡、カンファレンス等で意見アイデアを出し合い情報を共有し、観察を行い現状に即した介護計画を作成し、定期的なモニタリングを行っている。                        | 職員は2名の利用者を担当し、居室の掃除、シーツ交換等、生活全般の支援をしている。カンファレンスで担当職員始め全職員の意見を纏め、更に、家族の希望をお聞きした上で計画作成担当者や管理者によりケアプランを作成し、基本的に3ヶ月に1回の見直しを行い、状況に変化が見られた時には随時見直ししている。また、看取り支援に入った時には毎日見直しを行っている。                                      |                   |
| 27                                 |      | ○個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている                        | 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別介護支援記録や職員連絡ノートに記入し、また朝の申し送りの際に再確認を行い、職員間での情報を共有しながら実践。それを基に介護計画の見直しに活かしている。             |   |                   |
| 28                                 |      | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化<br>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる               | 本人や家族の思いや状況を確認し、必要としている支援を見極め適切なサービスに繋げる等、状況の改善に向けた対応に努めている。  |   |                   |

| 自己 | 外部   | 項目  | 自己評価  | 外部評価  |                   |
|----|------|---|---|---|-------------------|
|    |      |   | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 |      | ○地域資源との協働<br>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している                                      | 近隣の方々にボランティアに來訪して頂いたり、神社・公園・花の名所等への外出等、心身の状況に応じて安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。  |   |                   |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援<br>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している                                  | 本人のかかりつけ医との連携、家族との相談・希望等を大切に早期対応、緊急時には訪問看護や協力医の往診。また、家族が定期的に受診に連れていき適切に診療を受けられる事が出来ており、安心安全が保たれている。                             | 家族の希望に合わせて対応している。入居前からのかかりつけ医利用の方が数名おられ、月1回の受診対応で家族がお連れし、状態に変化が見られた時には連絡表をお持ち頂いている。その他の多くの方はホーム協力医の月1回の往診で対応している。合わせて常駐看護師1名と契約の訪問看護師の月2回の来訪で利用者の健康管理を行うと共に緊急時の対応も行っている。歯科は必要に応じ協力歯科の往診で対応し、口腔ケアについては歯科衛生士の資格のある職員の指導の下、取り組んでいる。  |                   |
| 31 |      | ○看護職との協働<br>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している                          | 介護職は日々の関わりの中での気づき・異常の早期発見に努め、ケース記録・連絡ノートを活用し、介護職から看護職へ細かな情報も確実・迅速に伝わる体制が整えられている。また、訪問看護士による定期的な観察と緊急時の対応により適切な看護が受けられるよう支援している。 |   |                   |
| 32 |      | ○入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院によるダメージを極力防ぐために、入院時には医療機関への情報提供を行いました、家族とも回復状況等情報交換しながら、速やかな退院支援に結びつけている。   |   |                   |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援<br>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる  | 終末期に対する対応指針を定め説明している。状態の変化に対しては早期に家族と終末期の在り方について話し合い、重度化した際はかかりつけ医とも連絡を取り合い家族の意向に応じて方針を明確にし終末期をどこで迎えるかを都度確認し情報を共有し支援に当たっている。    | 重度化や終末期に対する指針があり利用契約時に説明し同意書にサインを頂いている。また、その状況に変わった時に改めて説明し、希望を確認し、看取りに関する同意を頂き支援に取り組んでいる。昨年の3名の方、今年の1名の方を含め、開設以来10数名の方の看取りを行った。家族とも頻りに連絡を取り合い、医師を交えて方向性を細かく話し合い、住み慣れた場所で安心して最期の時を迎えていただくよう支援している。最期の立会い、お見送りを全職員で行い、家族からも感謝されている。年1回、看取り研修と話し合いを重ね、気持ちのこもった支援に取り組むようにしている。 |                   |
| 34 |      | ○急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている  | 急変・事故に備え、応急手当・初期対応の訓練を定期的に行っており、事故がない様見守り介護支援に努めている。緊急時の対応マニュアルが作成され掲示。連絡網は各自に配布されている。  |   |                   |
| 35 | (13) | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている  | 避難訓練には地区民生委員にも参加して頂き、全職員参加にて実施し緊急時の対応を見につけ、地域との協力体制を身につけ、地域との協力体制を整えている。  | 年2回、春と秋に消防署員参加の下、防災訓練を実施している。避難訓練では利用者全員が玄関先まで移動しての訓練を実施している。合わせて消火訓練、通報訓練も行い、地域の皆様にも案内をし、地震体験車で体験もしていただいている。また、毎月職員のみで夜間想定、日中想定避難訓練、緊急連絡網の確認も行い、緊急時に備えている。備蓄は「水」、「お米」、「味噌」、「非常食」等、3日分を準備し、「ガスコンロ」、「石油ストーブ」も備えている。  |                   |

| 自己                               | 外部   | 項目  | 自己評価  | 外部評価   |                   |
|----------------------------------|------|---|---|--|-------------------|
|                                  |      |   | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| <b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b> |      |   |   |  |                   |
| 36                               | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保<br>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている                    | 1人ひとりの思いや誇り・プライバシーを損ねない言葉かけを心掛けている。生まれ育った環境、慣れ親しんだ文化や習慣・考え方・価値観・人格を尊重し大切にしている。                                    | 何気なく発した言葉でプライドを傷つけないよう言葉遣いとトイレ介助には特に気を付けて接し、出来ることはやっていただくようにしている。入室の際にはノックと声掛けをして入るように心掛けている。呼び方は入居時に確認し、希望により苗字と名前に「さん」付けでお呼びしている。年1回開かれる法人主催のプライバシー保護の研修会に出席し意識を高め支援に取り組んでいる。  |                   |
| 37                               |      | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている                      | 生活歴や家族からの情報を基に1人ひとりのコミュニケーション能力に合わせ本人の想いを引き出し自己決定できるよう支援している。   |  |                   |
| 38                               |      | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | おおよその1日の流れはあるが、1人ひとりの気分や体調に配慮しながら、その人のペースで過ごして頂いている。  |  |                   |
| 39                               |      | ○身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している                                   | これまでの生活習慣や想いを大切に、季節に合わせた洋服を選んで頂いたり、ブラシで髪を整えたり髪をそるなど、本人が満足できるような支援をしている。   |  |                   |
| 40                               | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている      | 食事が楽しめるよう1人ひとりの好みを把握し、個々に合わせた形態で提供しメニューの説明や感想をお聞きし、会話を楽しみながら召し上がって頂いている。  | 食形態は様々であるが自力の方が三分の二強で、一部介助の方と全介助の方が若干名ずつという状況である。献立は食事担当の職員が法人の栄養士からの助言を基に栄養化を考え、「肉、魚、卵などのたんぱく質」、「レバー、ほうれん草等の鉄分」をバランスよく摂取できるよう献立を立てている。お手伝いは力量に合わせ食器拭き、トレー拭き等に参加していただいている。また、正月、クリスマス、お彼岸、誕生日等には行事に合わせた食事をお出しし、土用の丑の日には「うなぎ」も楽しんでいる。 |                   |
| 41                               |      | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている           | 食事・水分の摂取量を観察し、不十分な際には原因を探り嚥下力や生活習慣を考慮しながら、飲み物を工夫し一日の必要量の改善に努めている。また経管栄養者については体調観察をしながら安全に行えるよう栄養摂取や水分確保の支援に努めている。 |  |                   |
| 42                               |      | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている                    | 毎食後洗面所にて口腔ケアを行っている。うがい薬の使用や歯ブラシ・スポンジブラシの使用等、個々の状態に応じ見守りまたは介助を行い、口腔内の状態観察をし清潔の保持に努めている。                            |  |                   |

| 自己 | 外部   | 項目  | 自己評価  | 外部評価   |                   |
|----|------|---|---|--|-------------------|
|    |      |   | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている                              | 1人ひとりの状況に合わせてリハビリパンツや布パンツを使用し尿意の無い方も声掛けや早めのトイレ誘導をトイレで排泄が出来るよう支援している。  | 自立の方は若干名で、その他の方は何らかの介助が必要という状況である。介護支援記録から利用者一人ひとりのパターンを把握し、それに合わせ、トイレにお連れしている。また、統一的には2時間おき、食前、食後などに声掛けをするようにしている。更に、スムーズな排便促進を図るべく、月、火、木、金曜日には牛乳を、水曜日には乳酸菌飲料を摂取するようにし、合わせて水分摂取として経口補水液もとるようにしている。  |                   |
| 44 |      | ○便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる  | 排泄チェック表により排便の有無を確認。身体の身体の状態に合わせた水分、効果的な乳製品、繊維質の多い食事の摂取、体操やレクリエーションなど適度な運動をし、日中の活動を高め、個々に応じた予防に努めている。                  |  |                   |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の手配で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている                        | 入浴表はあるが、その時の気持ちを大切に体調や精神状態に合わせて入浴日を変更したり清拭を行う等、無理の無い様本人の希望に添い入浴を楽しんで頂ける様支援している。                                       | 全利用者が介助を必要としており、特浴使用の利用者がいる。基本的には週2回の入浴を行い、状況に応じプラスし入浴を行っている。合わせて夏場はシャワー浴での対応も行い、気持ち良く過ごしていただくよう心掛けている。拒否の方がいるが、何とか浴室までお連れして入浴していただくように工夫している。季節によりリンゴ湯やゆず湯なども楽しんでいる。  |                   |
| 46 |      | ○安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している   | 個々の生活習慣を大切に、体調や表情に注意しつつ、日中はなるべく活動し生活のリズムを整えるようにし、夜間の安眠に繋がる様短時間の午睡を取る様にしている。また、空調の整備等環境面からの支援も大切にしている。                 |  |                   |
| 47 |      | ○服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている  | 薬局からの服用薬品カードをファイル保存し、内容・副作用について把握できるようにしている。服薬時は名前の確認を行ってから手渡し又は介助により服薬して頂き、服薬した事の確認を行っている。服薬チェック表も作り内服を確認したら印をおしている。 |  |                   |
| 48 |      | ○役割、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている                             | 喜び・楽しみのある生活を送れるよう、歌や踊り・個々の能力にあったレクリエーションへの参加や出来る事の見極めをし本人が嫌でない事はやって頂き張り合いのある生活が送れるよう支援している。                           |  |                   |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 天候や体調を見ながら散歩や車でのドライブを行っている。少し遠方への外出は安全に過ごせるよう事前に十分な計画を練っている。また、重度になった方も庭先のテラスへ出て自然の風に触れ四季を楽しんで頂くようにしている。              | 自力歩行の方とシルバーカー使用の方が若干名で、手引き歩行の方と歩行器使用の方が数名ずつおり、車イス使用の方が三分二弱という状況で、介護度も上がり全員での外出が難しい状況になっている。天気の良い日には玄関先やベランダで外気浴を楽しみ、合わせて利用者の状況を見て少人数に分かれドライブに出掛けている。更に、飯山花火大会は全員で外に出て楽しみ、毎年の恒例行事となっている。また、室内で体を動かすことに重点を置き、行事担当職員が毎月ゲーム大会、運動会等を企画し、楽しみながら体を動かすようにしている。 |                   |

グループホームすずらん

| 自己 | 外部   | 項目   | 自己評価   | 外部評価   |                   |
|----|------|--|--|--|-------------------|
|    |      |  | 実践状況   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 |      | ○お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している  | 利用者の状況により金銭管理をホームで行っている。日常生活の中で本人が希望される時は好みの物を購入して頂き自分で使えるよう支援している。  |  |                   |
| 51 |      | ○電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている   | 本人が希望された時には電話をかけ話をしたり、大切な人への手紙のやり取りができるよう、申し出があればハガキを購入しいつでもポストに投函する旨を伝え、本人の気持ちを大切に配慮しながら支援している。               |  |                   |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 清潔の保持に努め、四季の花や絵、利用者様の作品。写真などを飾り。馴染みやすい空間作りをし安全と心地よさを大切に環境作りを努めている。   | 東西のユニット間の仕切りはオープンにされており、古民家を思わせる広いリビングでは18名の利用者がテレビを見たり話をし、思い思いに寛いでいる。壁には職員、利用者の似顔絵が飾られ、掲示板には行事の写真や利用者の誕生日予定が掲示され、和やかな雰囲気を作り出している。空調はエアコンと床暖房で快適に温度調整がされている。 |                   |
| 53 |      | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている  | 気の合った者同士が集える場所作りをし、その関係が保てる環境作りをしている。また、一人を望まれる方に対しては距離を置いてソファやテーブルを配置し思い思いに過ごせるよう配慮している。                      |  |                   |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている  | 利用者の状況に合わせてベットや車いすの位置を変え安全に自立した生活を送れるように配慮し、使い慣れた家具など馴染みの物や、思い出の写真・絵や家族からの絵葉書等を飾り家族の思いが伝わり本人が心地よく過ごせるよう支援している。 | 各居室とも掃除が行き届き、綺麗な中で生活している。持ち込みは自由で、使い慣れた家具、衣装ケース、ハンガーラック等で整理整頓されている。壁には家族の写真や誕生日のお祝いカードが貼られ、ぬり絵、折紙の作品、レースの編み物等の趣味の作品も飾られ自由に生活していることが窺える。                      |                   |
| 55 |      | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している   | 個々の能力を活かし、どうしたら本人の力でやって頂けるのか、分かりやすくするためにはどうすればよいかを工夫し、出来るだけ混乱しないよう自立支援に繋げている。                                  |  |                   |